

あや おり おど ほ ぞん かい

綾織しし踊り保存会



綾織町に伝わるしし踊り。宮城県の高成村から伝わったと言われる。大正年間(1912~1926)以前は、盆中にお寺の境内で稽古していたという。かつては中宿集落だけで踊っていたので、中宿しし踊りと呼ばれていた。

出演機会

遠野まつり/9月第3土日

練習期間

火曜日、木曜日、土曜日 19時30分~20時30分

受入可能期間

遠野まつりの時期

受入可能分野

踊り手、太鼓、笛

なが の しし おど ほ ぞん かい

長野獅子踊り保存会



小友町長野地区に伝わるしし踊り。慶長2年(1597)に伝わったという遠野のしし踊りの中で最も古い由来を持つ。構成はしし、刀かけ、中太鼓、子踊り、種ふくべとなっている。囃子方は、笛と太鼓で構成される。県指定無形民俗文化財。

出演機会

南部神社例祭、八坂神社例祭、遠野郷八幡宮例祭/9月15日、その他各種公演

練習期間

例祭1週間前、19時30分~21時

受入可能期間

例祭、公演の約1週間前から

受入可能分野

踊り手、太鼓、笛

はやちね おど ほ ぞんかい はりやま おど ほ ぞんかい

早池峰しし踊り保存会 張山しし踊り保存会



附馬牛町張山地区に伝わるしし踊り。延宝年間(1673~1680)、同地区の老人が伊勢神宮に参拝に行ったときに踊りを覚え、若者たちに教えたのが始まりと伝わる。『遠野物語』の著者・柳田国男が菅原神社で見たしし踊りである。県指定無形民俗文化財。

出演機会

早池峯神社例祭/7月18日、菅原神社例祭/8月第4土曜日、遠野郷八幡宮例祭/9月15日

練習期間

各例祭1週間前の平日、19時~20時30分

受入可能期間

遠野まつりの時期、地域の例祭等の時期

受入可能分野

踊り手、太鼓、笛、法被を着て歩く、幟を持って歩く

はやちね おど ほぞんかい じょうやなぎ ほぞんかい
早池峰しし踊り保存会上柳保存会



附馬牛町上柳地区に伝わるしし踊り。市内の張山しし踊りから習ったという言い伝えがある。「足」づかい、「頭(かしら)」づかいの鋭さが踊りの特徴。しし頭の前飾りと幕には、早池峰神社の神紋である「剣九曜」をつける。県指定無形民俗文化財。

出演機会

早池峰神社宵宮祭例大祭/7月17・18日、駒形神社例祭、徳昌寺盆供養踊り ほか

練習期間

例祭1週間前、19時～21時

受入可能期間

地域の例祭等の時期、遠野まつり当日や例祭日のみ

受入可能分野

法被を着て歩く、幟を持って歩く

こまぎしし おどり ほぞんかい
駒木鹿子踊り保存会



松崎町駒木地区に伝わるしし踊り。踊りの創始者の角助という男が、静岡県掛川でしし踊りを覚え、遠野南部家の殿様の前で踊った由緒がある。その言い伝えを幕やしし頭の建物(前飾り)につけている。県指定無形民俗文化財。

出演機会

遠野まつり/9月第3土日、福泉寺祭り/10月17日

練習期間

お盆すぎ週3回、19時～21時

受入可能期間

遠野まつり当日や例祭日のみ

受入可能分野

踊り手、太鼓、笛、鉦

ほそごえしし おどり ほぞんかい
細越獅子踊り保存会



上郷町細越地区に伝わるしし踊りで、同町の板澤しし踊りから分派した。日出神社、伊勢両宮神社及び南部神社の役じしを務めている。子どもから高齢者まで幅広い会員があり、地域づくりや青少年育成を行っている。

出演機会

日出神社例祭/6月第3日曜日、遠野まつり/9月第3土日、森の下伊勢両宮神社/10月中の日曜日で不定期

練習期間

例祭1週間前、19時30分～21時

受入可能期間

遠野まつりの時期、地域の例祭等の時期

受入可能分野

踊り手、太鼓、笛

さ ひ ない おど ほ ぞん かい

佐比内しし踊り保存会



上郷町佐比内地区に伝わるしし踊り。市内の駒木鹿子踊りから伝授したと伝わる。ししは横を向いたあと必ず正面に頭を戻す「かえし首」、踊り手は三角形を基本とした「三場」という足さばきがそれぞれ特徴である。

出演機会

遠野まつり/9月第3土日

受入可能期間

遠野まつりの時期

練習期間

遠野まつりの2週間前、19時～20時

受入可能分野

踊り手、太鼓、笛

とお の ごう いた ざわ おど ほ ぞん かい

遠野郷 板澤しし踊り保存会



上郷町板沢地区に伝わるしし踊り。由来は諸説あるが、弘化3年(1846)には踊られていた記録がある。同町の細越獅子踊り、釜石市の小川獅子踊りは板澤から分派した。国内外の各種イベントに積極的に出演している。県指定無形民俗文化財。

出演機会

日出神社例大祭/6月第3日曜日、遠野郷八幡宮例祭/9月15日、六神石神社例大祭/9月23日

練習期間

毎週水曜日、19時30分～他
各本番前1週間前、19時30分～21時

受入可能期間

随時受入可能

受入可能分野

踊り手、笛、法被を着て歩く、幟を持って歩く

そと やま かぐ ら ほ ぞん かい

外山神楽保存会



小友町外山地区に伝わる神楽。文政年間(1818～1830)には同地区で舞われていたと伝わり、嘉永元年(1848)の墨書のある権現様が現存する。早池峰岳神楽の系統で、五拍子の囃子を伝承している。

出演機会

遠野まつり/9月第3土日、八坂神社例祭/6月15日あたりの日曜日、小友まつり/8月最終土日

練習期間

毎週日曜日、20時～21時30分

受入可能期間

随時受入可能

受入可能分野

踊り手、太鼓、笛、鉦、法被を着て歩く、その他

こ ぐら かぐら ほ ぞん かい

小倉神楽保存会



附馬牛町小倉地区に伝わる神楽で、市指定無形民俗文化財である大出早池峰神楽の弟子神楽。保存会員には移住者も多く、地元住民と共に過去に行われていた演目の復活に取り組んでいる。

出演機会

決まった出演はなし

練習期間

イベントの1カ月前の平日、19時～21時

受入可能期間

どべっこ祭りなどのイベントの前

受入可能分野

踊り手、鉦

おお いで はや ち ね かぐら ほ ぞん かい

大出早池峰神楽保存会



附馬牛町大出地区に伝わる神楽。早池峰山を開山した藤蔵の後裔が伝えてきたと言われる。ほかの神楽と違い、門付け(人家や商店の前で芸能を演じること)は行わないしきたりがある。近年、参加希望者を受け入れて伝承している。

出演機会

早池峰神社宵宮祭例大祭/7月17・18日、遠野まつり/9月第3土日、神楽共演会/1月最終日曜

練習期間

毎週土曜日、19時～21時頃

受入可能期間

通年受入可能

受入可能分野

踊り手、笛

はち まん かぐら ほ ぞん かい

八幡神楽保存会



松崎町白岩地区に伝わる神楽。江戸時代には、遠野の山伏たちが寄せ集まって演じたものであったが、明治になって一座が結成されて伝えられてきた。遠野で唯一、法螺貝を使用したことから、法螺貝神楽などとも呼ばれた。

出演機会

遠野郷八幡宮例祭/9月15日、遠野まつり/毎年9月第3土日

練習期間

毎月第1・第3金曜日、9月1日～約2週間

受入可能期間

遠野まつりの時期、地域の例祭等の時期

受入可能分野

踊り手、笛、鉦、法被を着て歩く
幟を持って歩く、山車を押す

ひら くら かぐ ら ほ ぞん かい
平倉神楽保存会



上郷町平倉地区に伝わる神楽。明治34年(1901)頃、宮守町の塚沢神楽から指導を受け始まったと伝わる。地域の子供達には遠野まつりに向け、演目を教え発表させている。早池峰岳神楽の流れをくむ団体で、テンポが五拍子であるのが特徴。

出演機会

遠野まつり/9月第3土日

練習期間

遠野まつり1週間前、19時30分～21時

受入可能期間

遠野まつりの時期

受入可能分野

踊り手、法被を着て歩く、その他

なか まち なん ぶ ほ ぞん かい
仲町南部ばやし保存会



仲町地区に伝わる南部ばやし。仲町は江戸時代の南部藩三代花街としてにぎわった街で、多くの芸者衆がいたという。京都の祇園ばやしを模し、それに遠野の特色を取り入れた遠野独特のもので、市内の南部ばやしの中では一番古い歴史を持つ。

出演機会

遠野まつり/9月第3土日

練習期間

遠野まつり前の10日間程度、19時～20時

受入可能期間

遠野まつりの時期、19時～20時

受入可能分野

踊り手、笛、つつみ、法被を着て歩く
幟を持って歩く、山車を押す

ひと い ち なん ぶ ほ ぞん かい
一日市南部ばやし保存会



一日市地区に伝わる南部ばやし。京都の祇園ばやしを模し、それに遠野地方の特色を取り入れて案出したといわれる遠野独特のもの。踊り手の着物の柄がひとりひとり違い、町家の風情を残している。

出演機会

遠野まつり/9月第3土日

練習期間

遠野まつり開催前の約2週間、19時～20時30分頃

受入可能期間

遠野まつりの時期

受入可能分野

踊り手、笛、法被を着て歩く、山車を押す

ひらの はら でんとう みんぞく げいのう ほぞんかい たう おど
平野原伝統民俗芸能保存会(田植え踊り)



上郷町平野原地区に伝わる田植え踊り。弘化年間(1844～1848)、同地区に伝わったと言われている。田植え踊りの一団を連中と呼び、世話人、大夫、笛吹き、中太鼓、唐団扇持ち、子踊りで編成される。

出演機会

日出神社例祭/6月第3日曜日

練習期間

例祭1週間前、19時30分～21時

受入可能期間

地域の例祭等の時期

受入可能分野

踊り手

もり した おど ほぞんかい
森の下さんさ踊り保存会



上郷町森ノ下地区などに伝わるさんさ踊り。大正年間(1912～1926)に同地区に伝承された。踊り手は花で飾った編み笠をかぶり、赤襦袢をつけ、浴衣に赤青二色のたすきをかけて踊る。

出演機会

日出神社例大祭/6月第3日曜日

練習期間

例祭前の2週間程度、19時～20時

受入可能期間

地域の例祭等の時期

受入可能分野

踊り手、太鼓、笛

かみ みや もり さん さ おどり ほぞんかい
上宮守参差踊保存会



宮守町上宮守地区に伝わるさんさ踊り。昭和10年(1935)ころ、初演したと伝わる。盛岡さんさの手踊りを参考に、現代風にアレンジし現在に至った踊り。踊組は、世話人・太鼓・笛・踊手からなる。

出演機会

愛宕神社例祭/8月24日近辺の土曜日

練習期間

7月末頃から開始。お盆明けからは毎日実施
18時30分～20時 その他イベント等は2週間前から

受入可能期間

地域の例祭等の時期、イベントや郷土芸能共演会

受入可能分野

踊り手、太鼓、笛

しも ごう げい のう ほ ぞん かい
下郷芸能保存会



宮守町下宮守に伝わるさんさ踊り。花巻市横志田に伝承されていたさんさ踊りが基礎となっており、昭和24年(1949)に同地区に伝わった。踊組は青年会が中心となり、世話人・太鼓・笛・踊手からなる。令和5年度の遠野まつりポスターを飾っている。

出演機会

砥森神社例祭、遠野まつり/9月第3土日、みやもり荘のまつり、躍進みやもりまつりなど地元のイベント

練習期間

例祭日1カ月前の夕方

受入可能期間

8月下旬ごろから

受入可能分野

踊り手、太鼓、法被を着て歩く、幟を持って歩く

くれ つぼ とら まい ほ ぞん かい
暮坪虎舞保存会



上郷町暮坪地区に伝わる虎舞。朝橋長松という人が日清戦争に出征した時に習い覚えてきたと伝わる。市内では唯一の虎舞。踊り手の「ササラスリ」が直角に立てたハシゴを上る場面が一番の見せ場である。

出演機会

遠野まつり/9月第3土日、熊野神社例大祭

練習期間

1カ月前、19時～20時

受入可能期間

遠野まつりの時期

受入可能分野

踊り手、笛

にい ぼり すい しん い いん かい や ぎ ぶ し
新張まつり推進委員会(八木節)



新張に古くから伝わる郷土芸能「八木節」の愛好者を中心にし、地域の連帯を強めるため取り組んでいる。八木節はもとは群馬県・栃木県に伝えられてきた民謡。世代間交流、青少年の健全育成やまちづくりの一環として、まつりに参加している。

出演機会

遠野まつり/9月第3土日

練習期間

当日のみ

受入可能期間

遠野まつり当日や例祭日のみ

受入可能分野

踊り手、笛、法被を着て歩く、山車を押す

むい か まち しん めい かい

六日町神明会



七福神に扮した地域住民たちがのる山車と、六日町の伊勢両宮神社、通称「神明宮」の神輿で構成される。これは遠野で一番古い神輿で、寛延4年(1751)、町人たちが奉納したと伝わっている。

出演機会

遠野まつり/9月第3土日

練習期間

なし

受入可能期間

遠野まつり当日や例祭日のみ

受入可能分野

神輿を担ぐ



体験募集!

